

特定非営利活動法人(NPO法人) (通称: AAC21)

21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上 2-25-7-203
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213
E-mail: info@aac21.net

【カンボジア事務所】Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu, Kingdom of Cambodia
電話 (855) 12-737-559 (855) 78-784-808

【ホームページ】 AAC21 [検索](#)

【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#) [検索](#)

【Facebook ページ】 <https://www.facebook.com/aac21.net> [検索](#)

会報

幸福を、平和を、豊かな心を、 カンボジアの友と分かち合おう

アンコールワット

発行日 2013年(平成25年) 9月1日

第72号

(年6回 奇数月発行)

Facebookページを開設しました!

このたび、本会のFacebookページを開設しました。
本会ホームページ(<http://www.aac21.net>)左下の「Facebookページ」ボタンからどうぞ!
※Facebookをやっていない方でも自由にご覧になれます。ページ右上の「いいね!」をいただくと嬉しいです。
※本会の一番ホットな情報を随時アップします。
※追って、会員の皆様のグループを作り、会員様同士の交流の場を設ける予定です。

校舎を寄贈した小学校に図書館兼集会所が完成



狭い校庭に
村民ら千人集まり
贈呈式が盛大に開催



子どもたちのアブサラダンスが式に花をそえてくれた

立派に完成した図書館兼集会所

昨年三月、カンボジアのコンポンチャム県にあるトロバントム小学校に校舎を寄贈した石川桂さん(愛知県安城市、理事・里親会員)が、同小学校に今度は図書館兼集会所を寄贈、七月四日、その贈呈式が行なわれた。
式には、日本からふれあいの旅に参加した十二人と、カンボジア政府を代表してシア・ブン・レン閣下(内務省大臣)が出席、地元から村民約五百人と各学校から生徒約五百人が出席した。
図書館兼集会所は、レンガ作りの平屋建て、約三十坪の大きな建物だ。
寄贈した石川さんは贈呈式で、「子どもたちはこの図書館で大いに勉強してください。また村の皆さんは、この集会所を有効に使い、村民間の交流を深めてください」とあいさつした。

七月六日、石川さんは再度小学校を訪問、学校長や村の長老たち(二十人)と懇談会を行ない、今後の運営方法などについて話し合った。
建物内には、日本から持参した写真入り額縁を約二十点掲示し、館内の雰囲気がとてもよくなった。
建物内に必要な椅子付きテーブル、本棚、図書などは、今後少しずつ備えていく予定。



内務省大臣と握手する石川桂さん(左)

石川桂さんが校舎に続き寄贈

第二十四回カンボジアふれあいの旅終わる

七月三日〜九日、「第二十四回カンボジアふれあいの旅」が行なわれ、十二人の会員さんが参加、いつもながら内容のある充実した旅だった。
三日、成田・関西・名古屋の三空港より飛び立った一行はソウルのインチョン国際空港で合流、夜遅くプノンペン国際空港に到着した。
四日は、小学校の図書館兼集会所の贈呈式に出席(一面)、午後からは場所を変え、他の小学校で井戸の贈呈式に出席した。
五日は二グループに分かれ「クメール教育里親基金」が教育支援する里子の家庭を訪問した。
六日は自由行動日、三人の会員さんは「アンコールワット観光」に、四人の会員さんは「ウドン観光」にかけた。他の皆さんは思い思いに一日を過ごした。
七日は、本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」を訪問、十七人の子どもたちと昼食をともにし、交流した。

八日は、プノンペン市内観光などをこなし、夜の便で帰国の途に、インチョン国際空港を経由し九日の午前、それぞれの空港へ帰着した。
観光中心の旅が多い中、本会



リー・ソン国会議員ご夫妻と記念写真

五年に一度のカンボジア総選挙の結果は?

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

七月のカンボジアは雨季になり、朝夕のさわやかな風が心地よかった。道路に掲示してあるデジタル温度計は、昨日の晩は二十三度だった。熱帯夜が続く日本よりも涼しいカンボジアだが、さすがにここは本物の熱帯、日中は三十五度を超える猛暑だが、湿度が低いので木陰はさわやかだ。
だが、国民の気持ちは熱している。七月二十八日に五年に一度の総選挙があるからだ。
九十一一年の和平協定締結後、カンボジアは国連暫定統治機構の指導のもと、九十三年に初の総選挙を行なった。選挙監視ボランティアの中心人物である、選挙をボイコットしたポルポト派に殺されたのもこの時だ。
今回は五回目の総選挙、初回の選挙こそ二つの勢力が拮抗し

たが、その後は概ね、現政権である人民党が圧勝してきた。今回も人民党が圧勝かと思われたが、意外にも野党が善戦、プノンペンなどの都市部では若者に人気の野党(救国党)が過半数を取るだろうと予測されている。しかし、農村部に強い与党(人民党)の力は強く、この会報が発行される頃には与党圧勝の結果になっているだろう。

それでも、若者を中心に政治に変化を求める国民の声が大きくなっているのも事実だ。その原因の一つが、給料の安さ。カンボジア経済は毎年六〜八%の成長を維持してはいるものの、その利益は十五%程度の企業家や高級官僚などに集約され、八十五%の労働者は相変わらず低賃金の貧しい生活を強いられるという。

その事実を象徴する出来事があった。七月十二日、長期政権を率いるフンセン首相の父親が九十歳で死去したが、その葬儀はシハヌーク国王の死去(昨年)に匹敵するほど大規模だった。民放のテレビ局は連日その様子を放送、関係者の車が動く



バイクでデモ行進する野党支持の若者たち

度道路規制がしばしば行なわれていた。仮に日本の首相の父親が亡くなっても、新聞に載る程度だ。
国が成長することは結構なことだが、富の分配に配慮してもらわないと格差が広がる一方で

あり、いつか若者を中心に、大規模な抗議行動が起きかねない危険性をほらむカンボジアの政治情勢だ。
そんなカンボジアだが、ここに来て日系企業や日本食レストランなどが相次いで進出している。来年六月にはプノンペン市内に「イオンモール」がオープンする予定で、それにつられて日本のメガバンクも開設の構えを見せている。
日本の駐在員や投資目的でカンボジアを訪れる日本人が急激に増えており、このところ中国や韓国にやられっぱなしの日本にとっては朗報だ。
今年カンボジアが民主化され、二十年の節目の年だ。紆余曲折があったにしても何とか平和が守られたこの二十年間を自信と誇りに、カンボジア人にはこれからも国の平和と安定した社会作りを努力していただきたい。それが国際NGOの活動の前提であるから。(七月二十日記)

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



小学校で学ぶ里子たち

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめしてしまう子どもが後を断ちません。
本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。
例えば68年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。
※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】: 子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の用途】: 学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金などに使われます。このほか、現地スタッフの給料、ガソリン代、事務所家賃など現地でかかる経費、通信費、印刷費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】: 最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。

【里子との交流】: 里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。現地で暮らす里子に会いに行くための旅行も年3回実施しております。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、公的資金(税金)は一切いただいておりません。

七月はカンボジアの小学校に四つの井戸が完成

5月は農村に井戸を寄贈したが、小学校からの要望が多かったため、7月はすべて小学校に寄贈した。「ふれあいの旅」に参加した木村なぎささんは、父親が経営する会社から寄贈された井戸の贈呈式に参加し、立派な井戸ができたことを確認した。



きれいな水で顔を洗う子どもたち

カンボジア在住の山辺健一さんは、日本に住む母親の依頼を受け、二つの小学校で行なわれた贈呈式に参加した。亡くなった親族の法要を兼ねて行なわれた贈呈式には、地元の僧侶が読経してくれた。「北海道札幌手稲高等学校家庭クラブ」から寄贈された井戸の贈呈式には、生徒たちに代わり根岸理事長が出席した。

〈お願い〉

井戸の建設代金について、最近の円安傾向のため、また現地の物価高騰により、来年1月以降に作る井戸代金を現行の16万円から17万円に値上げせざるを得ない状況です。皆様のご理解よろしくお願いいたします。

7月に完成した井戸の内訳

寄贈者名	小学校名	生徒数	学校の所在地
① 有限会社 スピードテック様	スラッスロン小学校	380人	コンボンスプー県ソムロントン郡
② 山辺雅子・山辺健一様	トロバンチョーク小学校	493人	コンボンスプー県ソムロントン郡
③ 山辺雅子・山辺健一様	サマキー小学校	360人	コンボンチャム県ソムロントン郡
④ 北海道札幌手稲高等学校家庭クラブ様	ブンクナー小学校	478人	コンボンスプー県ソムロントン郡

※通算の井戸設置数（2003年～）＝231基（7月現在）

校舎を寄贈した小学校を訪問



学用品を配る鈴木千雄さん

夢ホームで職業訓練指導を行なうため、隔月にカンボジアを訪問している鈴木千雄さん（愛知県あま市、里親会員）が七月は、二〇〇七年に校舎を寄贈した「タイイー小学校」を訪れ、生徒と先生に学用品などをプレゼントした。生徒数も増え、隣りには中学校もでき、寄贈された校舎で子どもたちは熱心に学んでいた。鈴木さんは九月にも訪問し、今度は中学校の生徒と先生に学用品などをプレゼントする予定。



立派な洗面器ができました

七月十四日～十六日、板金加工技術修得のための職業訓練プロジェクト「もの作り技能講習会」（第十八回）が職業訓練で開催、夢ホームや村の子どもたち、八人が訓練を受けた。鈴木千雄さん（愛知県あま市、里親会員）が指導した。今回は洗面器を作成した。鈴木さんは六月に交通事故に遭って右手を負傷したため作業はできなかつたが、生徒たちは自主的に作業し、立派な製品が出来上がった。次回（第十九回）の講習会は、九月八日～十日を予定している。

第十八回「もの作り技能講習会」開催（夢ホーム）

村に共同トイレが完成した！

カンボジアの農村にはトイレのない家がたくさんある。ではどうしてかといえ、家の裏の空き地に穴を掘って用を足すそうだが、日本人には到底考えられないことだが、事実である。そこで、トイレのない家々の真ん中に共同トイレを作り、活用してもらおうことを考え、前号にて呼びかけたところ、早速、札幌の金井ユミさんから二人用トイレ建設資金提供のお申し出をいただいた。七月十日、村人が集まり、トイレの完成を祝い贈呈式が行なわれ、根岸理事長が出席した。根岸理事長は「トイレを清潔に使い、快適な日々を過ごしてください」とあいさつした。トイレは、一人用から四人用まで、建設費用は八万円～二十三万円の範囲で完成する。建設する地域によって値段が違いため、作ってくださる方は事務局へお問い合わせを。（☎03・3991・2854）



完成したトイレと村人たち

水上生活村の小学校を初訪問



水上の小学校で学ぶ子どもたち

カンボジアのほぼ中央に位置する、インドシナ半島最大の湖、トンレサップ湖は実に不思議な湖だ。雨季になるとメコン川の水位が上昇、トンレサップ湖からメコン川に注ぐトンレサップ川が逆流してトンレサップ湖に流れ込み、洪水を防止するのだという。自然界のことは、神の摂理を感じる。このような現象は世界でも南米のポロロッカとトンレサップ湖の二カ所だけだ。雨季になるとトンレサップ湖が肥大するので、水辺で暮らす漁民たちの住家は概ね船になっていく。住家だけでなく、学校も病院も売店も、何もかも水の上に浮いている。その様子が日本でも時々テレビで放映されるのでご存知の方も多いが、実際に訪れる人は殆どいないようだ。そこで思い切って七月十二日、事前に予約を取り根岸理事長始め五人のメンバーが水上生活村を訪問、まずは小学校を訪問し校長先生にインタビューを試みた。校長先生は、当会と國學院大学の学生さんたちが九月と十一月に計画している小学校訪問を快く受け入れてくれた。お土産のリクエストを尋ねたところ、きれいな飲み水ができる小さなタンクと学用品に決まった。学校名は「メイチュレイ小学校」、一年生から六年生まで、二百四十三人の生徒が学んでいる。先生は九人。水上生活村に中学校がないため、進学希望者は陸へ上がって通学するそうだが、陸に親戚などがいない場合、進学を諦める子が多いと聞いた。いずれにしても九月（國學院大学）、十一月（ふれあいの旅）の訪問が待ち遠しくなった。十一月に予定している「カンボジアふれあいの旅」の参加者を募集中、水上生活村の子どもたちと交流してみたい方はぜひご参加を。

児童養護施設《夢ホーム》日記

児童養護施設《夢ホーム》は両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活の場として、会員の皆様のご厚意により、2009年1月に建物完成、同年3月に開園しました。現在、5歳から18歳までの17人の子どもたちが入園、近所の小・中・高等学校へ通学しています。

ふれあいの旅一行が訪問



ふれあいの旅の皆さんと

7月7日、カンボジアを訪問中の「ふれあいの旅」の皆さんが夢ホームを訪問、17人の子どもたちと楽しいひとときを過ごした。昼食会では、子どもたちの歌に応え、佃井副理事長が戦時中に覚えた「私のラバさん、酋長の娘」を披露した。

たくさんの贈り物をありがとう



会員の皆さんから贈られたお米

ふれあいの旅一行の訪問時、お米・お菓子・文具などをたくさん寄贈していただいた。特にお米は50キロ入りを15袋もいただき感謝。夢ホームは会員の皆様からの「夢ホーム運営基金」で支えられており、子どもたちが安心して学べるのも皆様のおかげ。子どもたちはそのことをよく理解している。



100円ショップならぬ2500リエルショップ
プノンペンでは最近「2500リエルショップ」が流行しており、繁盛しているそう。日本の100円ショップをまねたものか、入店して品物を見てみたが、結構色々な物が並べられてあった。（2500リエル＝60円位）



田植えの季節
カンボジアは雨季になり、各地で田植えをしている光景が多く見られた。刈り入れは早く、雨季が終わる十一月頃、雨頼みの地域が大半なので、年に一度の収穫となる。



カンボジアのお祭り
カンボジアの地方で見かけた小さな山車、リヤカーに太鼓を積んで回るだけのものだが、子どもたちは各家を回り、お小遣いをせがんでいた。

WiFi無料店が急増
カンボジアの都市部はかなりのネット社会、大半のお店でインターネットが無料だ。喫茶店などはパソコン持参の若者ばかり。新聞やテレビよりもネットからの情報が正確で早いと好評。



フンセン首相の父親が逝去
七月十二日、カンボジアのフンセン首相のお父様が逝去、九十歳だった。おりしも五年に一度の総選挙の真っ只中、引い選挙になればフンセン首相率いる与党（人民党）には追い風。（写真：棺を乗せた車と沿道を行進するフンセン首相夫妻）

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親を失い、経済的に困窮しているカンボジアの子どもたちが学校へ行くことができるよう、二〇〇三年に「クメール教育里親基金」を創設、七月末現在で三百五十人の子どもたちを教育支援している。



里子のモン・モイちゃんを訪問した及川英博さん

七月三日・九日、「カンボジアふれあいの旅」が行なわれ、十二人の会員さんらが参加、そのうちの八人が里親さん

七月五日、二つのグループに分かれて里子の家を訪問した。ふれあいの旅に初めて参加した中田恵美子さんは、訪問した里子の母親が泣きながらお礼を繰り返すので、もらい泣きしてしまったそうだ。戸沼正雄さん・つたえさんご夫妻は三年ぶりに訪問、大きくなった里子の成長を、目を細めて喜んでいました。及川英博さんは、もうすぐ高校生になる里子の進学を確認するため家庭訪問した。高校へ進学したいということで、頑張るよう励ました。ハプニングも発生。里子を訪問した里親さんが、うっかりご自分のカバンを里子に忘れてしまった。里子の家では、これをプレゼントだと勘違いし、子供や親戚の人たちに小分けする寸前だったが、取りに行き、一髪セーフ。

里子家庭訪問記録

名前: ノッチ・ラッター	学校名: プレイチュム小学校
年齢: 9歳	学年: 小学校の2年生
性別: 男の子	
住んでいる場所: コンボンスプー県 ウドン郡、ヨトサムキーコミュニティ、トロピアンクナー村	
学校までの所要時間: 徒歩で15分	
好きな教科: 国語(特に書き取りが好きです。)	
苦手な教科: 算数(特に分数の計算を解くのが苦手です。)	
担任から一言: 成績:B 道徳:A 健康:A 学校活動:A 出席:A	
家庭状況: 現在、両親は離婚して、お母さんと暮らしています。兄さん1人、姉さん0人、弟さん1人、妹さん0で、ノッチ・ラッター君は第2子です。	
一日の過ごし方: 朝6時に起きて、顔を洗って、朝ごはんを食べて、学校に通っています。授業が終わってから家に帰って来て、11時半に昼ごはんを食べて、30分ぐらい昼休みをしています。午後、算数塾に行きます。夕食は7時ごろに食べ、水を浴びてから学校で勉強したことを復習して、8時ごろに寝ます。	
好きな遊び: サッカー	
好きな食べ物: 焼き魚	
将来の夢: 医者になりたいです。	



家の手伝いをしている写真です。

備考: 里親さんがラッター君を里子として選んだ後で、この家族の生活がどんどん良くなってきました。毎日、ラッター君は学校に通う時、きれいな学校洋服があり、学校でお小遣いが使えます。毎月里親さんから頂いている一部の支援金は日用品を買うそうです。ラッター君は学校の授業では、よく先生の説明を聞いて、試験に良い成績をあげて、嬉しいです。休み時間には、友達とサッカーをして遊んで楽しいですが、勉強の時間を忘れないと言いました。

担当者: ヴォン・ロットボレイ(現地スタッフ)

投稿

カンボジアは若く元気だった

里子のノイ・パーニンちゃんと同じく、ストリートチっちゃんに三年ぶりに再会し、なつかしかった。二人とも元気そうなので安心しました。大分先のことですが、里子関係が切れても健康で立派な大人になることを期待します。

2

自由行動の日に四人(永井氏、及川氏と私達夫婦)はカンボジアの古都「ウドン」を訪ねました。屋台が沢山並び、活気がありました。「ウドン」に近い所に涅槃木造がありました。その巨大さに圧



3年ぶりに再会し、なつかしかった

倒され、カンボジアは不思議な国だと感じました。

4団体合同写真展「アジアのこどもたち」開催

六月六日(九日、東京都内の「八王子市学園都市センター・ギャラリー」で、四団体合同写真展「アジアのこどもたち」が開催、四日間約五百人の来場があった。四団体の一つとして本会も写真展示した。アマチュア写真家の遠藤啓さん(伊豆の国市、会員)が写真の大半を提供してくれた。

当日は、遠藤さんを始め、近くに住む吉澤静子さんがボランティアとしてお手伝いしてくださった。

四団体は、本会の根岸理事長が代表や顧問を兼務していることから、年に一度、東京や神奈川県で開催し、好評を得ている。来年は、「神奈川県民センター」での開催を予定。



大勢の人が来てくれた(左が遠藤啓さん)

3

「夢ホーム」の訪問は楽しいひと時でした。子供達も私達が来るのを楽しみにしているようでした。歌や踊りで歓迎されました。厳しい境遇を乗り越え、たくましく生きているのを見て、うれしく思いました。

4

刑務所跡を見ました。大量虐殺が行なわれましたが、それを乗り越えて現在のカンボジアがあるのだと感じました。プノンペンには丁度、選挙期間中で、若い人達は自動車とバイクの長蛇の列で進行し、元気なカンボジアを感じました。

5

佃井さんを始めスタッフのおかげで良い旅が出来ました。ありがとうございました。(埼玉県人間市、里親会員)

甲子園学園から頂いたボールペンを配布

七月二十二日、カンボジアを訪問した小原武次郎さん(大阪府豊中市、会員)が夢ホームの近くにある小学校を訪問、五月に中野勝理事(兵庫県宝塚市、会員)が甲子園学園(兵庫県西宮市)を訪問して頂いたボールペンを、生徒たちに配布してくれた。思わぬ贈り物に、生徒たちは喜んでいました。小原さんは夢ホームにも立ち寄り、子どもたちにお米(三袋)をプレゼントしてくれた。



小学校を訪問した小原武次郎さん

秋の二大イベントに足をお運びください

【グローバルフェスタ2013】

日時: 10月5日(土)~6日(日) 午前10時~午後5時
会場: 日比谷公園(地下鉄日比谷駅下車 徒歩5分)

【横浜国際フェスタ2013】

日時: 10月19日(土)~20日(日) 午前10時半~午後4時
会場: 象の鼻パーク(みなとみらい線日本大通り駅下車 徒歩5分)

* テントにブースを設け、本会活動紹介、写真展示、会報など資料配布、カンボジア製品販売を行ないます。ボランティアでお手伝いしてくれる方を募集しています。(半日でも結構です)

カンボジアミニニュース

現地で発行している新聞や情報誌から、カンボジアに関するニュースを紹介します。

命のガンボジア野党党首が帰国

カンボジアの野党、カンボジア救国のサム・レンシー党首は事実上の亡命生活を送っていたフランスから帰国した。七月二十八日投票開票の下院選に向け遊説などを行なう予定で、議席数を狙う救国党にとって追い風となりそうだ。

サム・レンシー氏は、プノンペン国際空港から市中心部まで四時間以上にわたる車で進行。数万人が集まった同党の集会で演説し「汚職の国から清廉な国へ、不正義から正義へ、闇から陽光へと変革しなければならぬ」と氣勢を上げた。

みずほ銀行、プノンペンに駐在員事務所

みずほ銀行は七月八日、カンボジアの首都プノンペンに駐在員事務所を開設した。現地の情報収集などを行なっている。

プノンペンではすでに三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行が駐在員事務所を設けている。

カンボジアはタイ、ベトナムとの物流網整備、タイの労働力不足などを受け、製造拠点として関心を集め、ここ数年、日系企業の進出が増えている。二〇一二年の実質国内総生産(GDP)成長率は六・五%。

焼き鳥居酒屋の「時代屋」プノンペンに海外初店舗

都に十店舗展開する焼き鳥居酒屋「時代屋」(京都市伏見区)は、初の海外進出店舗として、カンボジアの首都プノンペンに焼き鳥居酒屋を出店した。

カンボジアは経済成長率が高く、平均年齢が二十五歳という若さがあり、勢いがある国となっている。

今まで、生きるために食事を摂っていたが、楽しむための食事メニューが増えてきている。より美味しい物、より多様なスタイルをプノンペンの町は求めていると同社は判断した。

PKO参加の高田警視 殉職から二十年

連平和維持活動(PKO)に参加し、一九九三年、カンボジアで活

動中に殺害された岡山県警・警視、高田晴行さん(当時三十三歳、警部補)を偲ぶ慰霊の集いが、二十年目の命日にあたる五月四日、プノンペンのタンコーサン寺院で行なわれた。日本大使館の呼びかけにより、大使館職員や在留邦人、国連関係者らが参列した。

高田さんは一九九三年五月四日昼過ぎ、タイ国境に近いカンボジア北西部のバンテアイミエンチェイ州アンピル村で、国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)の文民警官として活動していた際に武装ゲリラに襲撃され命を落とした。ともに活動にあたった日本人文民警官四人も重傷を負った。

内戦は終わったものの、まだまだ不安定な状況にあるカンボジアの平和を維持するため、日本が初めて実施したPKOの参加中に起こった痛ましい事件だった。

高まる日本語学習熱

プノンペンのカンボジア日本人材開発センター(CJCC)で五月五日、日本語スピーチコンテストが開催された。今年で十六回目となる。百六十六名の応募の中から二十名が選ばれ、日本への渡航経験がある「もみじの部」と経験のない「さくらの部」に分けて審査が行なわれた。

もみじの部、優勝者のオク・ソッケンさんは、日本人のカンボジアに対するイメージは「地雷」というあまりに偏ったもので、自分の国をどう伝えていけばいいかを考えるきっかけになったと、流暢な日本語で熱弁をふるった。

さくら部優勝者のニアック・ワンナーさんは、アントニオ猪木さんの「元気ですか!」というフレーズを合言葉に、たとえ壁があっても乗り越えていけると元気のあれば乗り越えていけると自己紹介を述べた。

空の旅で観光客を魅了

〇一二年にカンボジアは、三百六十万人の外国人観光客を誘致することに成功した。

カンボジア・アンコール航空によると、政府は今年の観光客数を四百万人と見込んでいるが、今後はより空路での移動も円滑にさせたいとしている。これが成功すれば、年間千万人の観光客を呼び寄せることができると予想する。

トゥッサナー・カンボジア



すしバーの人気メニュー（9ドル）

二〇一二年十一月に訪問した時に、日本食の店が増えたと思っていました。この六月に行き、大変増加している事が分かりました。たぶん二十〜三十軒はあると思います。

日本食レストラン続出

*トゥッサナーとは観察するという意味です。

今回の分かったことを紹介します。大人気の店はボンケンコン地区（日本人が多く住んでおり、中流の住宅地）にある「すしバー」です。昼食も満員で、予約で来ている人が多い。ところが、日本人は少なく、ベトナム人、中国人、韓国人が多いとのこと。経営者、従業員すべてベトナム人です。カンボジア人とベトナム人はあまり仲が良くありません。歴史的なことに所があるみたいですね。連れて行くカンボジア人はあまり愉快な顔をしません。前回同様、連れて行ったカンボジア人が「オウン」と呼んでも返事をしないのです。私が「おーい」と呼べば来ました。ちょっと注意してやりました。

（兵庫県宝塚市、理事・中野 勝）



初の里子訪問に胸がドキドキ

私は外国旅行が初めてで不安でしたので、息子が付き添ってくれました。息子も、とても良い旅だったと喜んでいました。充実した日程が、とても嬉しかったんです。アンコールワット、メコン川を見たとき、これが有名なところかと、驚きでいっぱいでした。理事長さんはじめ、同行してくれた役員の方皆さん、現地スタッフの方皆さんのおかげ様と、感謝しております。（青森市、里親会員）

投稿

カンボジアふれあいの旅に

参加して

中田恵美子

「第二十四回カンボジアふれあいの旅」に参加しまして、私が教育支援をしている子どもに初めて会える日となりました。

きしめてきたのでビックリ、と同時にうれしくもありました。ニットちゃんや家族には幸せになってもらいたいです。「夢ホーム」では、素晴らしい子どもたちに会うことができました。歌がうまい子どもさん、魚釣りをしている子どもさん、みんな明るく生き生きしていて驚きました。会の特別な計らいにより、私が初めて里親になった子、クン・ソーンちゃんにも会うことができました。高校を卒業し、もうすっかり大人になり、素敵な女性に成長したことは嬉しかったです。ただ、腸の病気で体調がよくないとのこと、就職できずに家でやっている売店を手伝っているそうで、一日も早く病院へ行き治療するようにお小遣いを渡したら、行きますと約束してくれました。

第十二回「鑄造によるアクセサリ作り技術講習会」開催（夢ホーム）



訓練の様子

日本宝飾クラフト学院（本校）東京都台東区）の専任講師で、自宅にも工房を持つ榎戸徹彦さん（横浜市里親会員）が、夢ホームに「夢工房」を作り、本会の職業訓練プロジェクトとして、鑄造によるアクセサリ作りを指導している。七月二十三日〜二十六日、第十二回技術講習会が行なわれ、夢ホームの子どもや地域に住む六人が参加した。アンコールワットのある町、シエムリアップのお店「クマエ・ユーン」に品物を置いてもらうようになり、八ヶ月が過ぎた。子どもたちの作品だけでは種類が足りないため、今は講師が見本として作った品物も販売をお願いしているが、子どもたちの腕も上がり、売れる商品の傾向もわかってきたため、売れる見込みのある種類の品物の作成にかかっている。次回（第十三回）の講習会は、九月二十四日〜二十七日を予定している。



安城の小学校校長 石川さん建設

全国から寄付 子どもの夢支援

中日新聞に掲載された記事

石川桂さんの学校図書館建設、中日新聞で紹介される

このほど、石川桂さん（愛知県安城市、理事・里親会員）の資金協力により、カンボジアの小学校内に学校図書館が完成、7月4日、完成を祝うセレモニーが行なわれたが、そのことが中日新聞（中京圏）に掲載された。

こうした善行をより多くの人たちに知ってもらい、理解と協力を促していきたい。

書き損じハガキ・未使用切手・商品券をお送りくださいませんか

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

送り先：〒176-0011

東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 本会事務局へ

真珠のように輝く子どもたちの瞳に出会ってみませんか？

「夢ホーム」で子どもたちと楽しい交流・里子の家庭訪問・アンコールワット観光・トンレサップ湖、水上生活村の小学校訪問(学用品配布)などなど

第25回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子どもたちとの交流をはかることができます。

特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子どもたちが皆様をお待ちしております。併せて学用品配布などのボランティア活動にも参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。

もちろんカンボジアといえば世界遺産の宝庫、アンコールワット観光やトンレサップ湖水上生活村の小学校訪問(学用品配布)もコースに入れました。なお、募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、参加される方は、事前に会員登録（一口5,000円）が必要になります。



「夢ホーム」の子どもたちが皆さんをお待ちしています



学校訪問では学用品を配布します

- 【旅行期間】平成25年10月30日（水）～11月5日（火）（5泊7日）
- 【募集定員】最少催行人員10名様（定員＝20名）先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。
- 【滞在ホテル】アンコールホリデイホテル(シエムリアップ)2泊
ダイヤモンドホテル(プノンベン)3泊
- 【利用空港】成田空港、関西空港、中部（名古屋）空港など。
- 【旅行日程】30日＝成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのシエムリアップ国際空港へ。
31日＝終日アンコールワット・アンコールトム観光。
1日＝トンレサップ湖、水上生活村の小学校訪問、学用品配布。シエムリアップ⇒プノンベンへバスで移動。
2日＝教育支援する里子の家庭訪問。（井戸贈呈式もあり）
3日＝夢ホーム訪問、子どもたちと交流。小学校対抗サッカー大会観戦。
4日＝国立博物館、トゥールスレン博物館見学。セントラルマーケットで買い物。ホテルチェックアウトして帰国の途に。
5日＝成田空港、関西空港、中部空港などに到着
- 【旅行代金】160,000円を予定。＊現地までの航空券代、ビザ申請代、現地での宿泊代、食事代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。＊1人部屋希望者追加料金5泊で12,000円。＊傷害保険は各自でおかけください。

【締切日】平成25年9月10日(火)

お問い合わせ・申し込み

旅行企画☆特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会

〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 TEL: 03-3991-2854 E-mail: info@aac21.net http://www.aac21.net FAX: 03-3557-1213

事務局便り

■第二十四回カンボジアふれあいの旅も終わり、ホッとしています。十月三十日から始まる、今年最後の第二十五回の旅の参加者を募集中、来月十日が締め切りです。■里親会費のお支払い方法について、一括支払い（年間三万円）か分割支払い（月額二千五百円）の二通りでしたが、二分割（年一回・一万五千元）又は三分割（年三回、二万円）も可能ですので、四つの方法を選択の上、お支払いください。

- 会報「アンコールワット」九月一日付第七十二号発行
- 國學院大學国際協力サークル（優志）
- カンボジアスタディツアー（九月二日～十二日）
- カンボジアアミニツアー（九月四日～二十二日）
- グローバルフェスタ2013（十月五日～六日・日比谷公園）
- チャリティコンサートin新潟（十月六日・新潟テルサホール）
- 会員懇親会「佐渡集會」（十月十二日～十三日・新潟県佐渡市）
- よこはま国際フェスタ2013（十月十九日～二十日・象の鼻パーク）